

DeepEye

Machine Vision

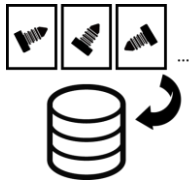
AIエンジニアでなくてもAI (Deep Learning)
開発にチャレンジできます

DeepEye (ディープアイ) Machine Visionとは

Deep Learning技術を用いた画像分類・物体検出を行うための学習パッケージPCです。

**DeepEyeは届いたその日から
簡単にDeep Learningの一連の処理を実行できます。**

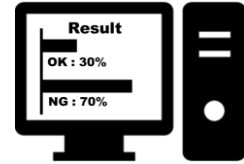
① 学習用データ作成



② 学習モデル作成



③ 推論実行



- Deep Learningに関する詳細な知識は必要ありません。
- Deep Learningの動作環境(Linux)の準備・知識は必要ありません。
- ユーザーフレンドリーなGUIで学習用データの作成・学習モデルの作成・推論実行の一連の処理を簡単に実行できるため、自社内で何度でも検証が行えます。

※CONCORDはDeepEyeの開発コードです。

画像分類

工業製品の外観検査などで見られる、微細な傷/汚れ等を検知して正常・異常の判定



正常



異常(傷あり)

物体検知

監視カメラ等で利用される人間の検出や、製品の傷ついた部分の特定



入力



出力

HWスペック

構成

OS	Ubuntu 18.0.4 LTS
CPU	Core i7-8700K
メモリ	32G (16G * 2)
SSD	500G SATA SSD
HDD	3TB
ODD	DVD Super Multi
電源	1000W
GPU	GeForce GTX2080Ti



オープン価格
1年間メーカー保証付

※上記以外の構成も可能です
※構成に関しては変更になる可能性があります。

対応ネットワーク

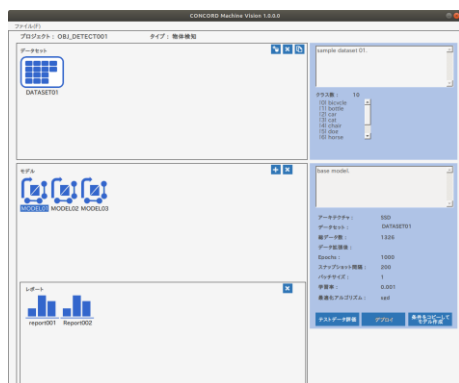
画像分類 GoogLeNet VGG16 Mobilenet v1
物体検知 SSD

※対応ネットワークは、バージョンアップにより増えて行く予定

画面イメージ

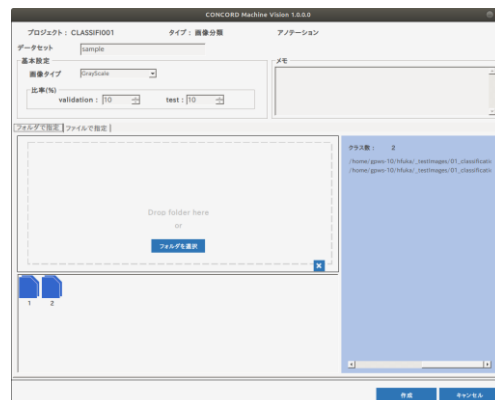
① メイン画面

実施したい機能を画像分類・物体検知の中から選択します。



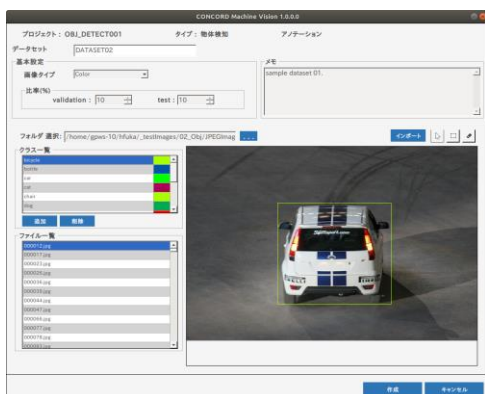
② 学習データ作成（分類）

分類用学習データ作成画面



③ 学習用データ作成（物体検知）

選択したタスクに応じた学習用データを作成します。
※画面は物体検知タスクの学習用データ作成画面



④ 学習条件設定

Deep Learningによる学習条件を設定します。
※画面は物体検知タスク用の学習条件設定画面



⑤ 学習モデル作成・経過可視化

作成した学習用データと、設定した学習条件を使用して学習を行います。学習実行時には経過を可視化します。



⑥ テスト推論・結果可視化

作成した学習モデルを使用してテスト推論を行います。
※画面は物体検知タスク用の学習条件設定画面



※画面に関しては変更になる可能性があります。